

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代女性1例)ありました。本年の累積報告数は19例となっています。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(60歳代男性1例)ありました。感染地域は国内、感染経路は水系感染です。本年の累積報告数は17例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が4例(60歳代男性)(第30週追加報告分)、(80歳代男性2例、90歳代男性1例)(第31週追加報告分)あり、本年の累積報告数は23例となっています。
- 梅毒(早期顕症)の報告が2例(30歳代男性及び10歳代女性)あり、ともに症状は梅毒性バラ疹、感染地域は国内、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は45例となりました。
京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>
- 百日咳の報告が2例(10歳未満男性1例及び女性1例)ありました。感染地域はともに国内です。本年の累積報告数は33例となっています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数が0.79となり、前週の0.72から微増しました。

◆ 今週のトピックス: <百日咳>

百日咳は本年1月1日から、それまでの小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更され、症例の詳細把握ができるようになりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 4例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 217例(肺結核 95例, その他結核 54例, 潜在性結核感染者 68例)うち喀痰塗抹陽性 54例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数19例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 17例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4例【1月以降の累積報告数 23例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 45例】
- 五類:百日咳 2例【1月以降の累積報告数 33例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.60	112
	② ヘルパンギーナ	1.53	66
	③ 手足口病	1.40	60
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	35
	⑤ RSウイルス感染症	0.79	34
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <百日咳>

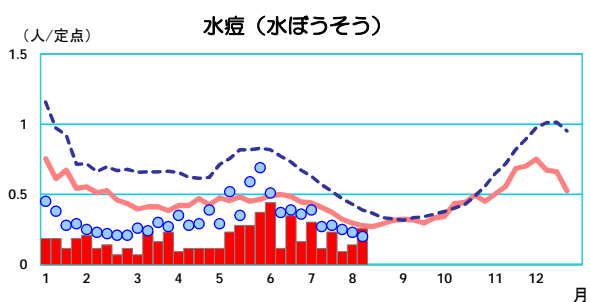
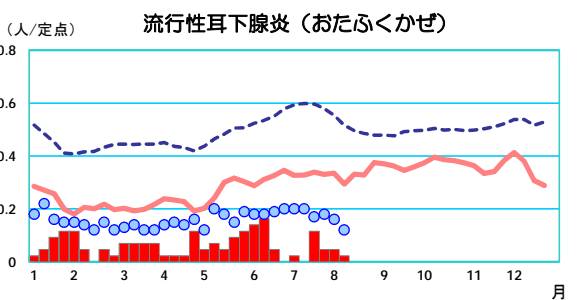
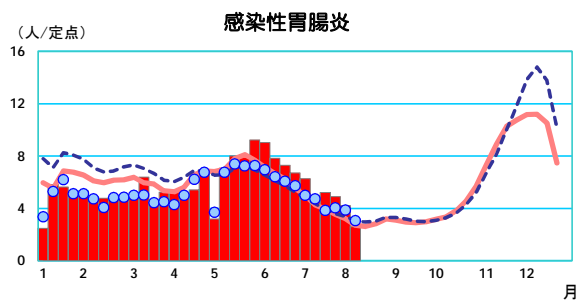
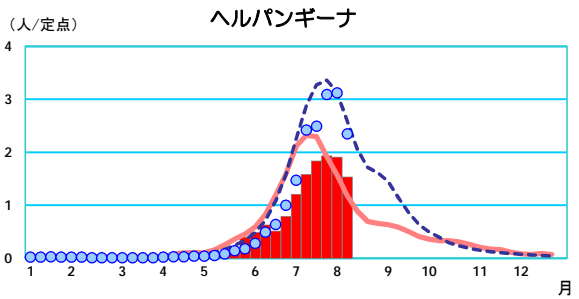
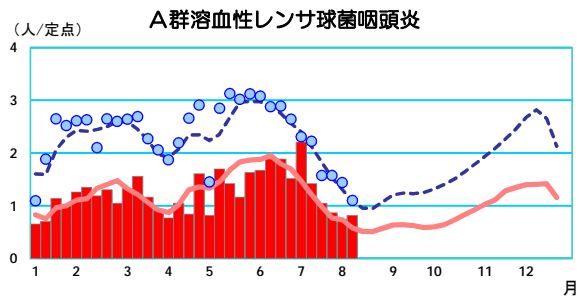
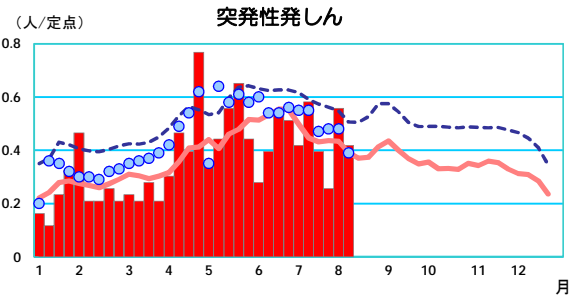
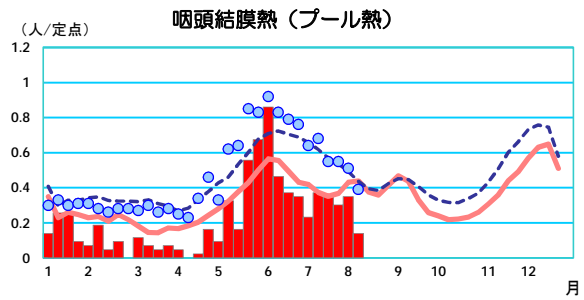
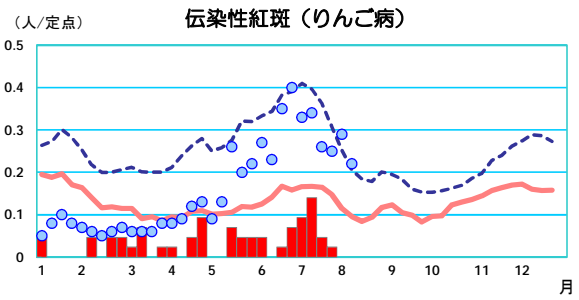
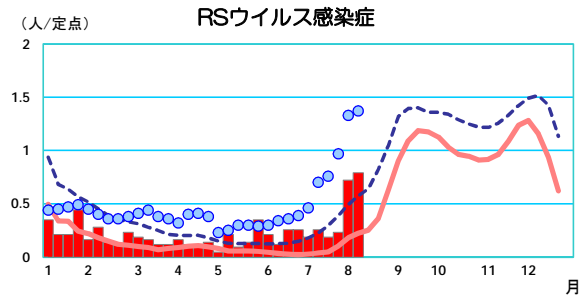
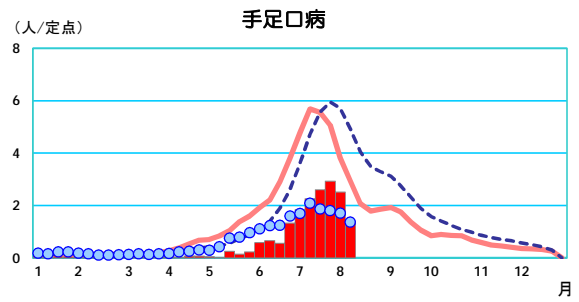
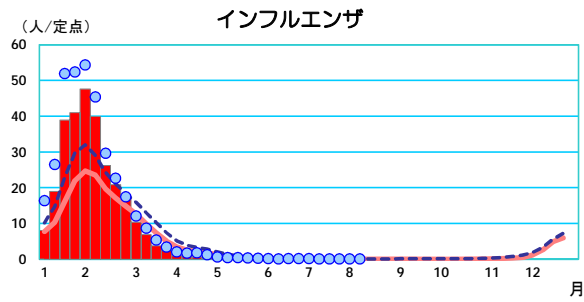
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年8月15日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第32週(8月6日～8月12日) トピックス: <百日咳>

百日咳は本年1月1日から、それまでの小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更され、症例の詳細把握ができるようになりました。本年の京都市の百日咳は第32週に2例の報告があり、累積報告数は33例となりました。全国では4,564例となっています(図1)。京都市の報告例の内訳をみると、男性 14例・女性 19例で、年齢階級別では0歳 2例、1～4歳 4例、5歳～9歳 14例となっています。0歳から9歳までの報告数が全体の60%を占めています(図2)。感染源は家族内と学校や保育園で85%を占め、学校等で広まったものを家に持ち帰って家族に拡散する構図、あるいはその逆の構図が推測されます(図3)。罹患者のワクチンの接種歴をみると、確実に接種したと申告のあった患者は55%でした。接種歴がない4例の中には、生後2ヶ月から始まる定期接種の月齢に達していない乳児も含まれています(図4)。百日咳菌は周囲への感染力が強く、また症状が軽くても菌の排出があるため、罹患者に気づかない家族が感染源になっています。予防にはワクチン接種が有効ですが、効果は4年から12年で減弱していくといわれ、1歳6ヶ月ごろに定期接種期間が終わると、学童期には効果の減弱が始まり、成人になるとワクチンの効果はほとんどなくなるため、ワクチン接種を行っても感染する可能性があります。

百日咳は、けいれん性の咳を特徴とする急性気道感染症です。普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増し、程度も激しくなります(約2週間持続)。その後、連続的な短い咳と、吸気時のヒュー音を繰り返します(約2～3週間持続)。百日咳と言われるとおり、長い期間症状が持続します。乳児期の早い時期から成人まで、広い年齢層で罹患します。

【医療関係者の皆様へ】 届出漏れはありませんか？

百日咳は、届出基準等が改正され、本年1月1日から五類感染症(全数把握疾患)となりました。改正の背景としては、次のような理由があげられます。

- ・15歳以上の罹患者の割合が増加した。
- ・これまで小児科定点把握疾患であったため、成人を含む患者の発生動向が把握されにくかった。
- ・定点把握では症例の詳細が把握できなかった。
- ・疾患に特異的な届出基準がなく臨床診断によるため、類似する他疾患を含む可能性があり、報告の特異度が高くなかった。
- ・定点把握は即時性に劣るため、集団発生への適時対応がとりにくかった。

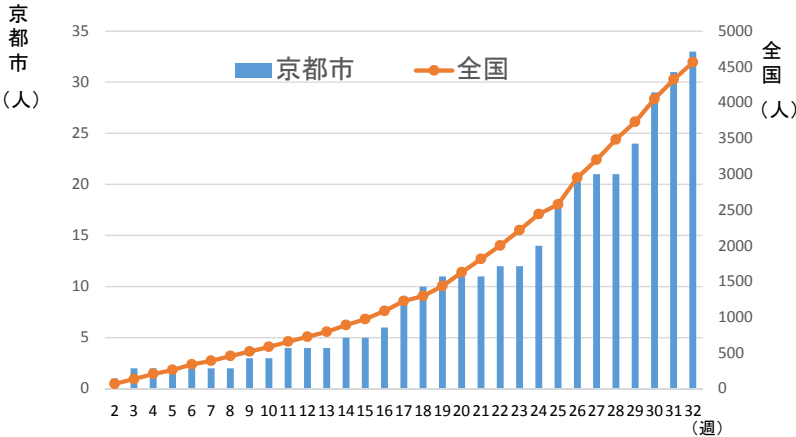
感染症法に基づく五類感染症(全数把握疾患)は、診断した全ての医師が、患者の発生について届出を行う感染症です。新たに定められる届出基準をもとにした診断と百日咳発生届での報告が必要となります。届出基準や発生届などについては下記のホームページを御覧ください。

【京都市情報館】感染症発生動向調査事業に関する届出様式
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

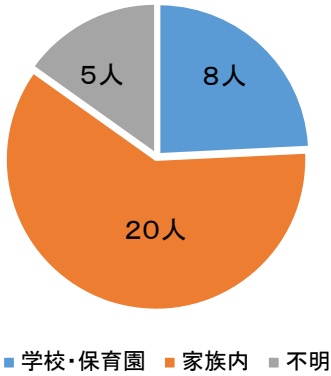
【厚生労働省】感染症法に基づく医師の届出のお願い
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html

【国立感染症研究所】百日咳とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/477-pertussis.html>

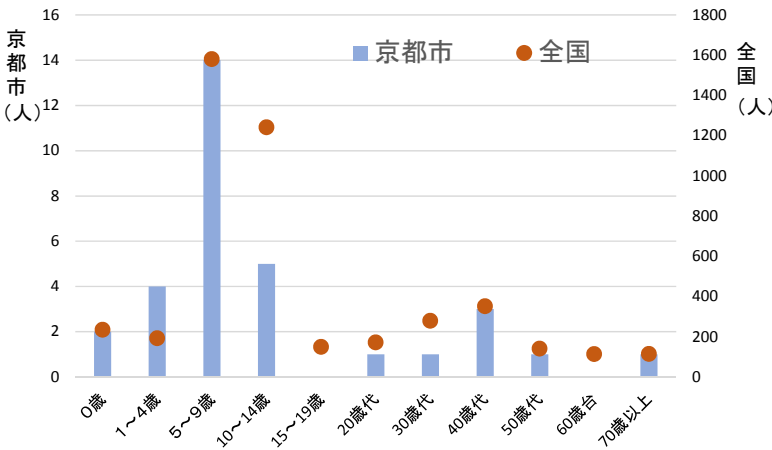
(図1) 京都市及び全国の患者の累積報告数



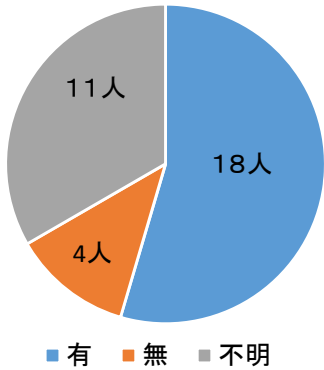
(図3) 京都市の患者の感染源 (n=33)



(図2) 京都市及び全国の年齢階級別報告数



(図4) 京都市の患者のワクチン接種歴 (n=3)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第32週

疾病,行政区別報告数

平成30年8月6日～平成30年8月12日

データ入手日:平成30年8月15日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	1	1	3	2	3	6	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	9	-	4	12	-	7	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	1	-	-	7	-	4	-	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	2	-	-	18	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	1	-	5	1	-	3	-	4	3	-	-	3	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	1	1	-	7	1	1	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	14	1	12	8	-	8	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	4	1	8	38	6	27	-	6	28	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	1	2	-	19	1	4	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	34	6	35	112	11	60	-	18	66	1	-	3	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	0.33	0.33	1.00	0.67	1.00	2.00	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	2.25	-	1.00	3.00	-	1.75	-	0.50	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	0.33	-	-	2.33	-	1.33	-	-	2.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.00	-	-	9.00	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	0.20	-	1.00	0.20	-	0.60	-	0.80	0.60	-	-	3.00	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	0.33	0.33	-	2.33	0.33	0.33	-	0.67	3.67	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	2.80	0.20	2.40	1.60	-	1.60	-	0.40	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	0.57	0.14	1.14	5.43	0.86	3.86	-	0.86	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	0.20	0.40	-	3.80	0.20	0.80	-	0.40	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.79	0.14	0.81	2.60	0.26	1.40	-	0.42	1.53	0.02	-	0.30	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第32週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年8月6日～平成30年8月12日

データ入手日:平成30年8月15日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	34	5	5	15	5	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		6	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35	-	1	1	4	1	7	8	3	3	-	2	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		112	1	10	15	14	8	3	16	7	6	3	2	13	3	11	-	-	-	-	-	-	-
水痘		11	-	-	1	1	3	2	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		60	-	3	27	13	10	3	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		18	-	8	6	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		66	1	2	21	19	8	4	6	1	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	0.79	0.12	0.12	0.35	0.12	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.14	-	-	-	0.05	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.81	-	0.02	0.02	0.09	0.02	0.16	0.19	0.07	0.07	-	0.05	0.09	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.60	0.02	0.23	0.35	0.33	0.19	0.07	0.37	0.16	0.14	0.07	0.05	0.30	0.07	0.26	-	-	-	-	-	-	-
水痘		0.26	-	-	0.02	0.02	0.07	0.05	0.02	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1.40	-	0.07	0.63	0.30	0.23	0.07	0.07	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.42	-	0.19	0.14	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1.53	0.02	0.05	0.49	0.44	0.19	0.09	0.14	0.02	0.02	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.30	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	0.10
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第32週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年8月15日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	2	3	3	1	-
RSウイルス感染症	8	11	8	10	31	34
咽頭結膜熱	10	16	15	13	15	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	95	61	45	37	32	35
感染性胃腸炎	270	213	224	211	181	112
水痘	13	5	10	4	6	11
手足口病	79	97	112	126	108	60
伝染性紅斑	4	6	2	1	-	-
突発性発しん	18	25	17	11	24	18
ヘルパンギーナ	52	68	79	83	82	66
流行性耳下腺炎	1	-	5	2	2	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	6	3	7	8	3
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	552	510	523	508	490	346

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	0.03	0.04	0.04	0.01	-
RSウイルス感染症	0.19	0.26	0.19	0.23	0.72	0.79
咽頭結膜熱	0.23	0.37	0.35	0.30	0.35	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.21	1.42	1.05	0.86	0.74	0.81
感染性胃腸炎	6.28	4.95	5.21	4.91	4.21	2.60
水痘	0.30	0.12	0.23	0.09	0.14	0.26
手足口病	1.84	2.26	2.60	2.93	2.51	1.40
伝染性紅斑	0.09	0.14	0.05	0.02	-	-
突発性発しん	0.42	0.58	0.40	0.26	0.56	0.42
ヘルパンギーナ	1.21	1.58	1.84	1.93	1.91	1.53
流行性耳下腺炎	0.02	-	0.12	0.05	0.05	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.60	0.30	0.70	0.80	0.30
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	12.99	12.30	12.37	12.32	12.00	8.28

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。